

# 電腦援助

浅田 英輔

Ver.19

電腦援助とは。

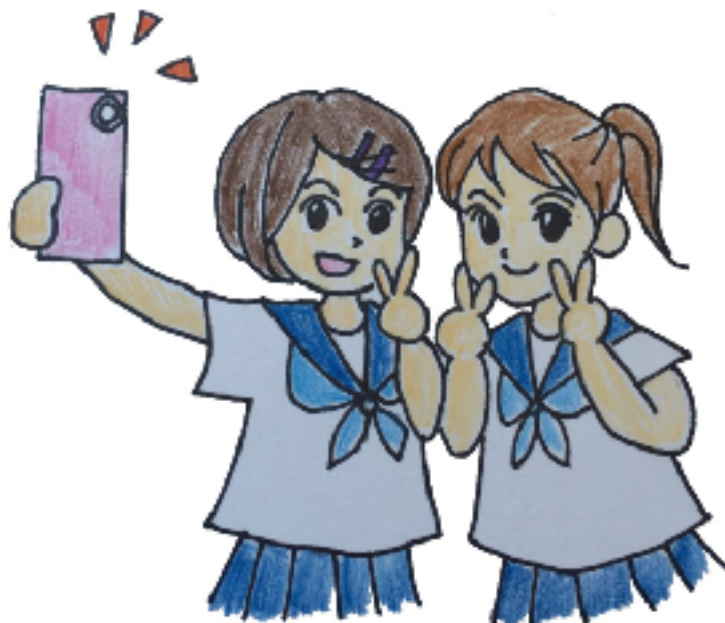
毎日、対人援助の仕事をしている。主に、人と関わる仕事である。このマガジンを読んでいる人、執筆者の方々は、なんらかの形で対人援助に関わっているのだろうと思う。医療職や福祉職と呼ばれるものだけが対人援助ではない。役所の仕事も広い意味では対人援助といえるし、営業職だって対人援助の技術は大いに必要である。さらに、技術だけでなく考え方などを身につけるとよりよいように想像される。

「仕事大好きです」という人は多くないかもしれないが、対人援助に関わる人は、何かしら、仕事のなかに喜び、やりがいをみつけて取り組んでいるのではないだろうか。人と関わる仕事をしていると、いいことばかりではなくて嫌なこともある。クライアントにいやなことを言われることもあるだろう。理不尽な思いをすることも少なくないだろう。でも、そういったことも含めて、対人援助の仕事にやりがいを感じている人も多いと思う。

しかし。

現実の仕事はどうだろう？対人援助そのものに時間を取れないことも多いのではないだろうか。この様々な書類のたくさんの欄を埋めなければならない。こないだ作った資料のどうでもいい部分を修正しなければならない。「念のため」というだけで膨大な書類を作らなければならない。この上司は自分が何を言っているかわかっているのだろうか。こんなことに時間をかけるなんて、暇なのだろうか？アンケートの集計に多くの時間はかけたくなって、分析や考察に時間を使いたいのだ。

私は、そういった、楽しくない、やりたくないことにかかる時間をできるだけ減らしたいのである。中には、「責任のないどうでもいいような仕事をして時間を過ごしたい」という人もいるのだろう。私は、そういう人を対象と考えていない。



「やりたくない仕事」「できるだけ時間をかけたくない仕事」に時間を取りたくないのだ。しかし、そこを工夫する時間を取れない人がいる。特に、パソコン関連のことになると、苦手意識があったりして、工夫を考えることを避けてしまう人がいる。それはそれで仕方がないのだけれど、そうやって「時間をかけたくない仕事」にかかる時間が減らないのは、もったいないと思っている。そういった人たちの時間獲得に、少しでも手助けしたいという思いから、この電腦援助を書き始めていた。もう少し言葉を悪くすると「そんなもんに時間かけてんじゃないよ！こうやればすぐだから、ほら、これやりなさい！」という偉そうな視点でもある。

かつて、書類が手書きだったころに比べると、パソコンが普及したことで書類仕事の手間は格段に減っているはずである（私は手書き書類はほぼ書いたことがないが）。同じ文章は何度も書かなくてすむし、間違いがあってもすぐ修正できる。人がかいたよい文面をもらってしまうことも簡単である。当時、アンケート集計などはどうやっていたのか想像できないほどである。なによりも、人に文書を送ることが簡単で即できるようになっている。

もちろん、そのぶん、1人に求められる量は多くなっているし、必要な技術の幅も広がったことだろう。だからこそ、ルーチンワークに時間をかけていられないのである。その時間を減らすことが重要なのである。

そういうことを考えながら、電腦援助を書いてきた。



日々の様々な仕事において、ワードやエクセル、メールやインターネットをうまく使えば楽できることが非常に多いのだ。特に、ルーチン作業に効果を発揮する。

対人援助にたくさん力を発揮できる人が、ルーチンワークに煩わされる時間が減るほど、世の中で助かる人が増えるのではないだろうか。本気でそう思っている。世の中の有能な対人援助職が、ルーチンワークにかかる時間を半分にできたら、困っている人が大幅に減るのではないかと思っている。そういう意味では、電腦援助を書くことも、広い意味での対人援助といえると思っている。

ひとまず、電腦援助はここまでにいたします。

皆様がよい電腦ライフを送られることをお祈りいたします。

Let's 電腦！